

ねらい

- 1 聴覚障害について基礎的な知識と聴覚障害者への正しい理解を広める。
- 2 聴覚障害者にとっての手話の大切さを理解してもらう。
- 3 手話の豊かさにふれ、関心を持ってもらう。
- 4 聴覚障害者や手話への親しみを深めてもらう。

(基本部分)

活動	流れと留意点	準備物など
1 ろう者の気持ちになってみましょう	・声なしの手話であいさつをし、それが聴者が声だけでしゃべっているときのろう者の気持ちであることを説明する。	パワーポイント
2 きこえないってどんなことクイズ	<p>(1) ベートーベンが補聴器を使っていたか (感音難聴・伝音難聴・耳ときこえの仕組み)</p> <p>(2) オーディオグラムの見方 (聴力の表し方)</p> <p>(3) 補聴器/人工内耳について (基本的な構造・きこえを補う仕組みとその限界)</p> <p>(4) ろう者が困ること (手話で深い話のできる人のいない孤独感・無理解から誤解されやすいことなど)</p> <p>(5) コミュニケーション方法 (きこえない人とコミュニケーションするときの注意)</p> <p>(6) 手話という言葉 (歴史的背景・聾の誇り・手話言語条例)</p>	↓
3 まとめ	<p>・身体的障害・精神的障害・社会的障害の3つの障害</p> <p>({世の中の障害} をゼロにすることが誰もが生きやすい社会づくりにつながることを話す)</p>	↓

7月24日 9:25～9:45 西脇警察署

○テーマ「聴覚障害者の特性と接遇の基本」

○講師 西脇市設置通訳者

○ねらい

- 1 聴覚障害について基礎的な知識と聴覚障害者への正しい理解を広める。
- 2 聴覚障害者にとっての手話の大切さを理解してもらう。
- 3 手話の豊かさにふれ、関心を持ってもらう。
- 4 聴覚障害者や手話への親しみを深めてもらう。

○基本部分につけたオプション

- ・蛇の目寿司事件・・・ろうあ運動のもとになった刑事事件
- ・きこえない人に対する接遇の基本

○アンケート回収 7人/30人 (23%)

- ・視覚的表現を見て、思っていた以上に補聴器をつけても聞こえにくいことが分かった。今後は聴覚障害者の立場に配慮した対応を心掛けたい。
- ・後ろの席は声が聞こえにくくわからなかった。
- ・貴重な体験であった。子どもが小学校で習ってきた手話を自宅で教えてもらって関心を持っていた。相手の立場、気持ちを分かりあって世の中の障害をなくしたい。
- ・ろう者の特性が良く理解できた。以前事故現場でろう者と接する事案があってから興味を持っていたがまた勉強したいと思った。
- ・なんだか現場で聴覚障害者と接することがあり、そのときは筆談をされていた。ろう者の特性を理解することができたので今後警察人生だけでなく、私生活でも相手の立場に立った対応をしたい。
- ・家族が補聴器を装用しており、ちぐはぐな言動を認知症と思っていたがそれだけではないと思った。



8月21日 10:00~11:30 西協商工会議所女性会

○テーマ「きこえないってどんなこと～歌で手話に親しもう」

○講師 西協市設置通訳者

○ねらい

- 1 聴覚障害について基礎的な知識と聴覚障害者への正しい理解を広める。
- 2 聴覚障害者にとっての手話の大切さを理解してもらう。
- 3 手話の豊かさにふれ、関心を持ってもらう。
- 4 聴覚障害者や手話への親しみを深めてもらう。



○基本部分につけたオプション

- ・きこえない子どもの気持ち・現在の聾学校
(きこえる家族の中での疎外感・親子関係・言葉を覚えること)
- ・きこえない人の世界
(情報の入りにくさ・孤独感・手話の豊かさ)
- ・手話歌 「四季の歌」
(歌詞の意味を考えてろう者に伝わる手話・ろう者が見て楽しめる手話)

○アンケート回収 17人/17人 (100%)

- ・とても楽しく時間が過ぎました。自分に関係ないと思っていたがそうではないことがわかりました。歌に合わせてたやりやすかったです。
- ・前から興味を持っていました。ろう者との接し方も勉強になりました。
- ・きこえないって本当に大変で、本人しかわからない悩みがあったり、それを打ち明けること自体が大変なんだと痛感しました。たいへんよい体験でした。
- ・手話が身近になった気がします。
- ・きこえない人の気持ちに寄り添えたらとより深く思いました。
- ・とても楽しく体験させていただきました。これからも手話に接する機会を作っていけたらと思います。
- ・耳が聞こえないことでこんなに生活に不自由されていたんだと思いました。「手話に興味がありました。「何かお困りですか」と手話でできるようになりたいです。
- ・テレビでは見ていましたがろう者と出会うことが今までなかったですがとても興味深かったです。聾学校の様子もとても勉強になりました。
- ・挨拶の手話を教えてもらえてよかった。
- ・初心者向け、2回目・3回目の人向けというように分けて手話を教えてほしい。
- ・西協のろう者の方はどんな生活、学校、お仕事をされているのだらうと思いました。
- ・いろいろなことが大変勉強になりました。



9月19日 11:35~12:20 桜丘小学校

○テーマ「手話歌を習おう」

○講師 西脇市設置通訳者

○ねらい

- 1 聴覚障害について基礎的な知識と聴覚障害者への正しい理解を広める。
- 2 聴覚障害者にとっての手話の大切さを理解してもらう。
- 3 手話の豊かさにふれ、関心を持ってもらう。
- 4 聴覚障害者や手話への親しみを深めてもらう。

○流れ

・聾学校の子どもたちについて

(同じ教科書で同じ勉強をしている、みんなと同じ子どもであること)

・きこえない人の世界

(手話の大切さ・豊かさ)

・手話歌の心構え

(きこえない人たちの大切な歌・手話をまねするだけでなく意味を分かって心を込めて歌ってほしいこと)

・手話歌「上を向いて歩こう」



10月21日・22日 9:30~11:00 西脇消防署

○テーマ「救急現場できこえない人に出会ったら」

○講師 西脇市設置通訳者 社会福祉課職員

西脇市聴覚障害者協会

○ねらい

- 1 聴覚障害について基礎的な知識と聴覚障害者への正しい理解を広める。
- 2 聴覚障害者にとっての手話の大切さを理解してもらう。
- 3 手話の豊かさにふれ、関心を持ってもらう。
- 4 聴覚障害者や手話への親しみを深めてもらう。



○基本部分につけたオプション

・救急現場で使う言葉の手話

(現場に到着し搬送まで、また搬送中に言われることをあらかじめ聞いておき、わかりやすい手話表現を教える)

・日常で使える手話

(ろう者の入ったグループに分かれて交流)

○アンケート回収 45人/45人 (100%)

・最初に講師が声なしの手話をしてきこえない人の気持ちを体験したら、たった数秒で不安になった。ろう者の不安な気持ち、さらに事故などの時はさらに緊迫した中で不安を取り除くことができるようになりたいと思った。

・とてもよかった。手話だけでなく、ろう者の感じている部分まで知ることができてよかったです。

・聴覚障害者の気持ちになって物事を考える必要があると感じた。

・健常者からの歩み寄りの大切さを感じた。今後も機会を見て参加したい。

・一度だけろう者を搬送したことがあり、コミュニケーションに苦慮した。今回の研修を機に手話を学びたいと思う。

・空書ということを知った。今後現場で活用していきたい。

・ろう者と手話以外でもジェスチャーや表情でもコミュニケーションできることが分かった。救急現場では様々な情報が必要になるので、様々な方法を活用していきたい。

・伝えたいという気持ちで相手の気持ちになって考えることが大切だと思った。

・楽しく学べた。興味深かった。手話を習いたいと思った。

・危険が迫っているときに肩をたたいて知らせる場面が参考になった。補聴器をしても聞き取りにくいことが初めて分かった。話を聞いて生きづらさに気づけた。

・これからに必要なことが学べた。手話のハードルが下がった。

・ろう者に「こうしてほしい」ということがあれば教えてほしい。

11月21日 11:35~12:20 和み会(地域)

○テーマ「手話歌を習おう」

○講師 西脇市設置通訳者

西脇市聴覚障害者協会

○ねらい

- 1 聴覚障害について基礎的な知識と聴覚障害者への正しい理解を広める。
- 2 聴覚障害者にとっての手話の大切さを理解してもらう。
- 3 手話の豊かさにふれ、関心を持ってもらう。
- 4 聴覚障害者や手話への親しみを深めてもらう。

○流れ

・きこえない人の世界

(手話の大切さ・豊かさ)

・手話歌の心構え

(きこえない人たちの大切な歌・手話をまねするだけでなく意味を分かって心を込めて歌ってほしいこと)

・手話歌「四季の歌」「いのちの理由」「ふるさと」

○アンケート回収中 11人/11人